

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成28年度 第1回事業普及委員会
議事概要

I. 日時 平成28年5月19日(木) 18:00~20:00
場所 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局

II. 出席者 向殿担当理事、今泉委員長、木村委員、宮脇委員、山本委員
(事務局 井端事務局長、平田職員、竹苗職員)

III. 検討事項

1. 2016年度機関誌 No.2 の進捗状況の確認について

- ①事務局から「巻頭言」は岐阜医療科学大学学長の間野先生に打診中。「特集」は「地域連携によるアクティブ・ラーニングの取り組み」として、前回の打合せにしたがって、園田学園女子大学に「経験値評価システム」、島根大学に「PBLによる地域協創型人材養成」、名古屋学院大学に「PBLによる全学年一貫して地域を学べる教育システム」、多摩大学に「プロジェクト型地域学習」の5件を現在打診中との報告があった。
- ②そのうえで、改めて2件を追加した。一つは信州大学より社会人公募制の共同研究型授業として「地域志向教育の推進と実践」、二つは中村学園大学より授業資金を市民から集める「クラウドファンディングの取り組み」の依頼を行うことになり、早々打診することにした。
- ③「大学の組織的な取り組みの工夫」については、前回の打ち合わせで候補とした「高大接続の取り組みの紹介」として、「三重県立看護大学」と「杏林大学」、「eポートフォリオの取り組みの紹介」として、「大阪樟蔭女子大学」の3件に原稿を依頼することにした。さらに、4件の候補として、阪南大学にSNSを利用した「SNS型データ管理システムのeポートフォリオの導入」、鹿児島大学に「医学部・歯学部生を対象としたeポートフォリオ」、帝京平成大学に弱点を発見・克服するための「クラウド型ポートフォリオシステム」について、原稿依頼を早々打診することにした。また、少し視点を変えて「学修成果の可視化とアクティブ・ラーニング」として、共愛学園前橋国際大学よりポートフォリオ作成のインセンティブ向上を目指した「学生の成長という成果の可視化の重要性」について、原稿依頼を早々打診することにした。
- ④「特集」のテーマを9月号は「地域連携によるアクティブ・ラーニングの取り組み(1)」、12月号は「(2)」として連載することにした。

2. 2016年度機関誌 No.3、No.4 の企画について

- ①No.3の「特集」は、No.2号に続いて「地域連携によるアクティブ・ラーニングの取り組み(2)」として、4件の候補を検討した。一つは徳山大学にAL(アクティブ・ラーニング)の進捗度を階層構造化した「学内アクティブ・ラーニング研究所の取り組み事例」、二つは佛教大学に興味深い地域連携教育である「地域資格制度による組織的な大学地域連携の構造と教育の現代化」、三つは広島修道大学に地域プロジェクトの失敗から新しい学びを掘り下げた「ひろしま未来協創プロジェクト」、四つは昭和大学に患者中心の医療に向けて「地域の関連機関と協業した取り組み」とし、早々打診することにした。
- ②「大学の組織的な取り組みの工夫」は、「特徴的なPBL授業」として、茨城大学に企画遂行型PBLと地域参画型PBLの両方含めた「PBL授業の紹介」、芝浦工業大学に「工学教育における一貫したPBLの取り組み」とし、早々打診することにした。
- ③来年3月のNo.4の「特集」は、「情報セキュリティ」をテーマとして、私情協の情報セキュリティ研究講習会運営委員会および対策問題研究小委員会がまとめた大学情報セキュリティーのベンチマークリスト及びベンチマークテストの集計結果に基づくサイバー攻撃への防御体制と課題、情報処理推進機構(IPA)による最新のサイバー攻撃の動向と防御対策を紹介することで了解が得られた。
- ④「大学の組織的な取り組みの工夫」は「eラーニングの効果と課題」をテーマとして、早稲田大学、神戸学院大学薬学部、京都外国語大学、北海道医療大学より「eラーニングの取り組みや効果・課題について」紹介いただくことを確認し、早々打診することにした。
- ⑤海外ニュースとして、前回決定した3件の2つ「Evidence of Learning: A Framework for Facilitation」、「How Personalized Learning Unlocks Student Success」の翻訳を依頼し、紹介することにした。

3. 次回委員会と今後のスケジュール

次回委員会は、6月30日(木) 18:30からとし、原稿チェックのために戸高先生にも連絡すること

にした。
翻訳分科会委員への翻訳作業依頼状況

次の要領で委員の了解は得られております。

- *添付ファイルは2種類の記事ごとにフォルダを分け、それぞれに原文、ワークシート、図のみ抽出したファイルを入れております。
- *図表中の文字の和訳もお願いいたします。
- *Notes の和訳は不要です。

(1) Evidence of Learning: A Framework for Facilitation

*2016年度 No.4（3月号）に掲載する予定です。

翻訳：田村先生
期限：9月30日

監訳：山本先生
期限：11月30日

(2) How Personalized Learning Unlocks Student Success

*2017年度のいずれかの号に掲載する予定です。

翻訳：藤沢先生
期限：11月30日

監訳：山本先生
期限：2月29日

以上